

東洋医学的アロマセラピー ～きっかけ編～

編集部



7月27日(火)「東洋医学的アロマセラピー」というセミナーに参加しました。講師は、和秦漢方治療院(世田谷区)の院長 橋本和也氏です。橋本氏は漢方薬・鍼灸などの東洋医学を軸にして、伝統医学から近代医学まで分野にこだわらず、さまざまな療法の中から臨床において効果的な療法を独自に研究されています。2005年アロマセラピーインストラクターになられてから、東洋医学的解釈という新しいアプローチで、アロマセラピーと東洋医学の相乗効果を探求されています。

この日のセミナーは、本講座(全8回)の内容を紹介するプレ講座として行われました。「自然治癒力を正しい方向に導き、健康と美容を増進する」という大きなテーマのもと、1.自然治癒力とは 2.東洋医学的アロマセラピー概論(精油と漢方と経穴) 3.東洋医学の基礎(経絡・経穴概論) 4.天地の道の呼吸法 5.実習: レシピ-肝経を調える- という内容で、東洋医学の基本的な考え方から、アロマセラピーとの併用法にいたるまでを、東洋医学の知識がない人にも大変わかりやすい講義と実際のトリートメントの体験とで、アロマセラピストはもとより、一般の方のセルフケアの知識としても有意義な内容でした。

まず、自然治癒力について。バランスをくずした身体其自然治癒力を立て直すためには、木がしっかりと地面に根を張って倒れないようにするのと同じように、対症療法にとどまらず、呼吸、食事、運動、睡眠といったベースをしっかり立て直す必要があるとのこと。当たり前のことのようにですが、やはりどんな療法においても、この土台は共通の必須項目です。その上で、フィトセラピー(植物療法…漢方・ハーブ・アロマセラピーなど)や、鍼灸、その他の伝統医学で立て直していきましょうとのこと。

今回は、「二日酔い、肩こりを治す!」というテーマで、漢方トリートメントを具体的に

説明されました。最初に、精気論のお話。精気は身体を養う源泉で、元々身体の中には、精があって、外から気が入ってきます。精に気が入って精気となり、身体の中を巡るという考え方。この考え方をふまえて、東洋医学を学んでいくとわかりやすいということです。

そして、経絡、経穴、経脈のお話へとすすみます。鍼灸・指圧などは、経絡(精気の通る道)や、ツボ(経穴)を用いて、経絡を流れる精気をコントロールする術。そこに、精油を塗布していくのが、橋本氏がされている漢方トリートメントです。

次に、五行から見た、この日の目的の二日酔い(肝臓)と肩こり(筋肉)との関連を説明し、生薬との関連で選んだ精油(フランキンセンス)の根拠をお話されました。肝経脈や、太衝(ツボ)にフランキンセンスを使ったトリートメントを受講生に実際に体験してもらって、自分でもできるように指導されました。

橋本氏の豊富な臨床経験から、全体にするアロマトリートメントよりも、(不調がある場合は)ピンポイントとする漢方トリートメントの方が、間違いなく効果があるとのこと。併用する場合は、全体のトリートメントに使う精油と、ピンポイント(その経絡や経穴)で使う精油を違うものにするのとよいとのこと。アロマセラピストには、大変興味深いトリートメント法だと思います。



<講師プロフィール>

橋本 和也
和秦漢方治療院院長
薬剤師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師
AEJ認定アロマセラピーインストラクター
東京理科大学薬学部漢方研究室卒
連絡先
和秦漢方治療院
<http://www.wakana-med.com>